

W20 パネル・ディスカッション①「ジェンダーギャップの解消を通じた新しい成長のカタチ：女性のエンパワーメントを実現するガバナンスとは」

現状・課題

G20 各国は 2018 年 12 月のブエノスアイレスでの首脳宣言において、ジェンダーを主流化する戦略を採択した。このことは、G20 のあらゆるアジェンダがジェンダーの視点から議論され、あらゆる局面におけるジェンダーギャップが解消されることこそが、SDGs (Sustainable Development Goals) の実現に大きく寄与するということが、従来以上に明確に G20 首脳間で確認されたことを示唆している。GDP において全世界の約 90%、貿易額において全世界の約 85%、人口において全世界の約 75%をカバーする G20 各国における全てのセクターの女性が立ち上がり、質の高い経済社会活動へのアクセスを得、公正に評価され、意思決定に参画し、未来の仕事に必要なリテラシーを持つことによって、世界の経済社会の成長にどのようなインパクトを与えるのか、産官学様々な視点から議論する。

また、同首脳宣言は、SDGsの実現への寄与が見込まれる様々な個別分野におけるジェンダーギャップの解消、女性のエンパワーメントに関するコミットメントをも含んでいる。このことは、2015 年以来 5 か年にわたる W20 プロセスにおいて継続してきた議論の結晶である。今後は、議論の深化とともに、具体的な実行こそが重視される段階に入ってきたといえよう。ジェンダー主流化及び様々な個別分野におけるジェンダーギャップの解消と女性のエンパワーメントに関するコミットメントを推し進めるために、政府、民間経済主体、市民社会はそれぞれどのような役割を果たすことが求められているのかについて議論する。

論点

- ジェンダー主流化、様々な個別分野におけるジェンダーギャップの解消、女性のエンパワーメントにより、世界の経済社会の成長にどのようなインパクトがあるのか？
- ジェンダーギャップの解消を通じた新しい成長、富はどのように再定義されるか？
- ジェンダー主流化戦略の実現を支える人・資金等の資源配分のあり方は？
- 政府や民間経済主体の意思決定におけるジェンダー平等を実現するために有効な官民データの整備に向けて、各主体はどのような役割を果たすべきか？